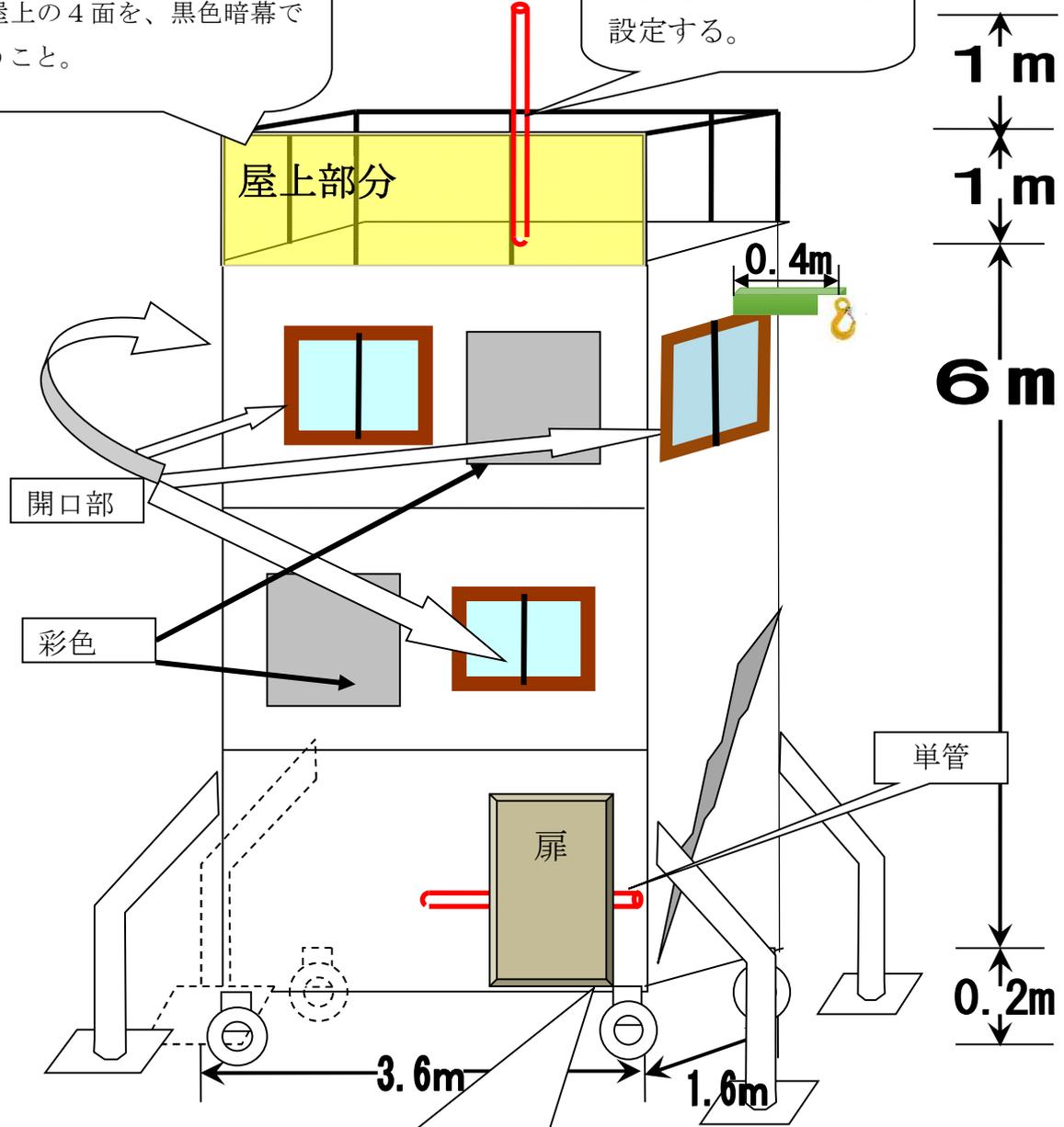


模擬ビル仕様書

- ①鉄単管を使用し、はしごを架けていても、十分な強度であること。
- ②屋上の4面を、黒色暗幕で覆うこと。

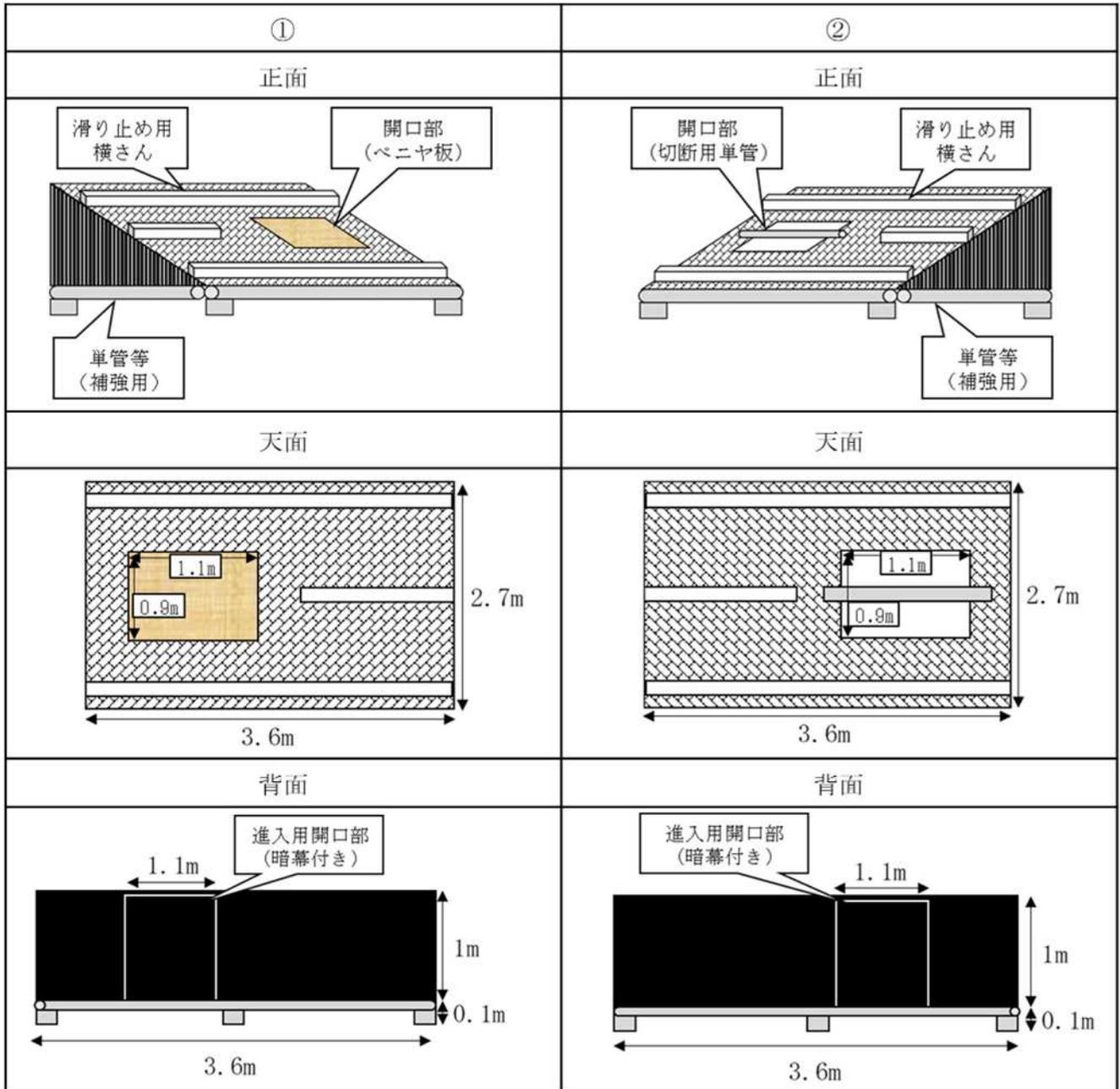
三連はしごを支える強度を有する単管を設定する。



切断用の単管 1 本をクランプで取り付ける。
 ※切断時大量の火花が出るように、肉厚の単管とする。
 扉部分は、コンパネをくりぬき、単管に立てかけ状態にする。
扉 (h 1.8 m × w 1 m)

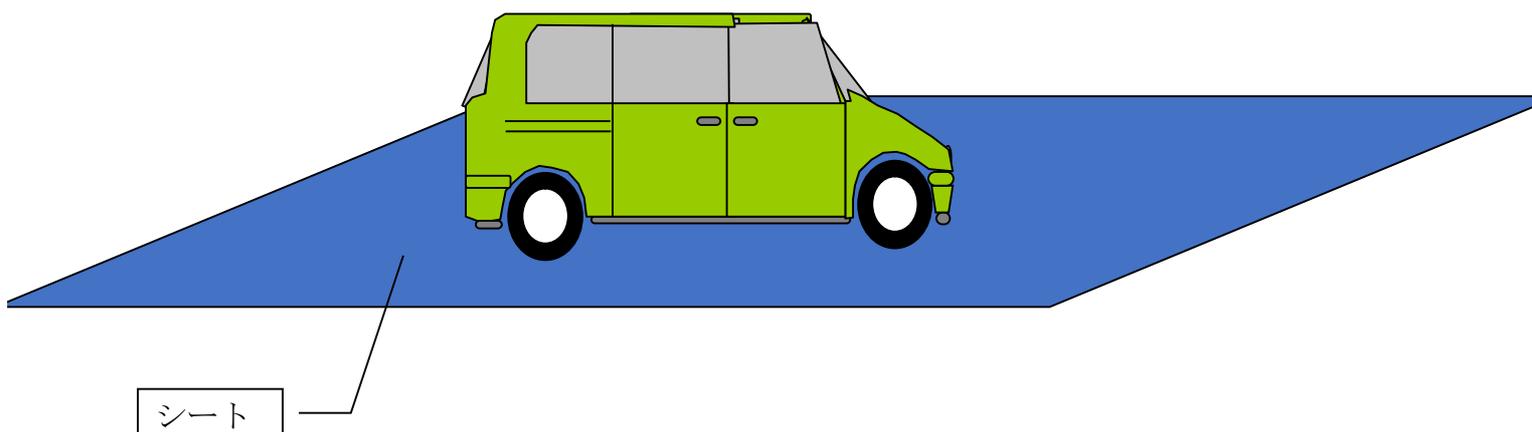
- 1 骨組みは鉄製（アルミ製可能）とし、アウトリガー（キャスター、ジャッキ付）を施し転倒防止の処置を図る。
- 2 建物内部は、訓練隊員及び要員等が屋上部分まで進入するため昇降可能な状態にする。（背面に簡易はしご設定等）
- 3 外壁はコンパネにより三面（背面以外）を覆う。
- 4 背面は、要救助者が隠れられるように暗幕等で覆う。
- 5 コンパネは、窓ガラスや亀裂をイメージしたペイントを施す。
- 6 コンパネは、前面に2箇所及び3階の側面に2箇所に開口部を設ける。
3階フック部付近に設けられた開口部については、引き違い窓のような形状とし、容易に開閉できる構造とするもの。
- 7 建物内部の2、3階及び屋上部分には、床面を作成する。
- 8 屋上部分は、5名が同時に乗ることのできる強度を有すること。
- 9 最上部分には、単管を使用し転落防止枠を設け、当該鉄柵はアンカーの作成が可能な強度（140kg以上・静荷重時）を有するものとする。
- 10 3階開口部付近に設置したフック部については、チェーンスリング100用（アイタイプ）スリングフック（YH-10）若しくは同等品以上のものを用い、フックに75kg以上の静荷重時に耐えうる強度を有するものとする。また、フックへ荷重が掛かった際に、建物が転倒しない処置を講じること。

模擬倒壊建物



- 1 屋根部には、瓦模様を彩色する。
- 2 模擬倒壊家屋は、屋根上で隊員4名が活動可能な強度及び構造とする。
- 3 模擬倒壊家屋を人力で持上げての移動が可能な強度（底部は単管補強等）を有するものとする。
- 4 屋根上には、活動隊員滑り止め用の横さんを設置するものとする。
- 5 屋根上の一部（1.1m×0.9m）を開放状態とし、その部分に単管及びベニヤ板を設置し、切断等可能な状態とする。
- 6 単管及びベニヤ板を取り除けば、屋内へ通じるようにする。
- 7 底部に移動時の持ち上げ用に10センチメートル程の間隙を設けるものとする。
- 8 背面には要救助者役の者が進入できる開口部（1.1m×1m）を1箇所設け、黒幕により目隠しを行うものとする。
- 9 模擬家屋の下にはシートを敷き、訓練による鉄くず等が道路上に飛散しないようにする。
なお、シートは、風等でめくれないように処置をすること。

模擬車両仕様書



模擬車両

- 1 普通乗用車（廃車）1台を準備する。
- 2 廃車は、訓練により破壊可能な車両とする。
- 3 廃車のオイル及びガソリン類は抜きとり、更にバッテリー、エアバック、を事前に取り外しておく。
- 4 車両の下にはシートを敷き、訓練による鉄くず等が道路上に飛散しないようにする。
なお、シートは、風等でめくれないように処置をすること。
- 5 訓練終了後、使用した車両は会場から撤去し、本市が定める場所（市内）に運搬すること。